子供たちのウェルビーイングを高める教育実践
～個別最適化された学びと対話的な学び合いを柱として～

三島村立三島大里学園

1　研究のねらい

本校は極小規模校であり，不登校の経験や発達の特性等がある子供たちも在籍しており，その実態は様々である。また,「学校たのしぃーと」や鹿児島学習定着度調査の結果に注目すると，自己肯定感の低さや学び方に関する課題も明確になってきた。

子供たちの学校生活の充実を図り，子供たちの人生をより健康で充実したものにするために，令和５年１月に中央教育審議会から出された次期教育振興基本計画でのコンセプトの一つである「日本社会に根ざしたウェルビーイング」を高める必要があると考えた。

2　研究の概要

本校では，子供たちのウェルビーイングを高めるためには，まず学校生活の中心である学習面の充実が不可欠であると考えた。さらに，少人数でありながらも子供たちの実態は様々である点を考慮し,「個別最適化された学び」と「対話的な学び合い」を通した学習面の充実が，子供たちのウェルビーイングを支える大きな柱になるのではないかと考えた。

また，学習面以外では「環境面の充実」や「社会性の充実」も子供たちのウェルビーイングを支える柱になるのではないかと考え，これらの４つの視点から実践に取り組んだ。

3　研究の内容

研究の４つの柱及び重点実践事項は以下のとおりである。

研究の柱	重点実践事項
(1)　個別最適化された学びの充実	ア　個別最適化された教材準備と支援の手立て イ　子供たちの発表とフィードバックを通した個別最適化 ウ　個別支援カルテの充実
(2)　対話的な学び合いの充実	ア　授業や行事ごとの振り返りの実践 イ　積極的な遠隔授業への取組 ウ　「話し方・聴き方のものさし」の提示
(3)　子供たちを取り巻く環境面の充実	ア　校内の掲示物に関する工夫 イ　子供たちの情操を育む環境づくり
(4)　より良い人間関係を築くための社会性の充実	ア　子供たちの所属感や自己肯定感を高めるための工夫 イ　全学年での SST(ソーシャルスキルトレーニング)実施 ウ　「大里郷中教育」の取組

4　研究の実際

(1)　個別最適化された学びの充実

ア　書く量や難易度に配慮した２種類のワークシートなど，子供の実態に応じた教材準備に取り組んだり，ロイロノートの共有機能を使って個別にヒントや解説を直接書き込んだりするなど，子供たちの実態に合わせた支援を行った。

イ　学習したことをプレゼンにして発表するだけでなく，子供同士の意見の交流や教師からのフィードバック等を掲示板アプリで行うことで，個別最適な学びと協働的な学びの一体化を図り充実させる取組を行った。

【 後期課程音楽科での発表の様子 】

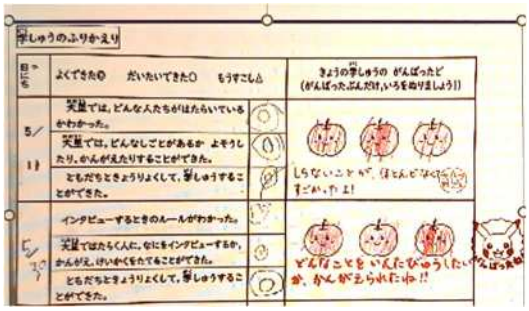
ウ　子供たち一人一人の実態をより深く理解するために，諸検査の推移や知能検査から分かる学習スタイル等をまとめた個別支援カルテを作って分析し，職員一人一人が個に応じた指導の手立てを考えた。

(2)　対話的な学び合いの充実

ア　全学年で毎時間，振り返りに取り組むようにし，子供がメタ認知する力の向上を図った。また，行事ごとの振り返りも行うことで，子供たちが目標をもって学校行事に取り組み，充実感を得られるようにした。

イ　対話的な学び合いを充実させることを目的として積極的に遠隔授業を取り入れ，発表や話合いの場面が多く設定できるようにした。

ウ　話合い活動を充実させるための視点を与え，話し合う技能を向上させることを目的として『話し方・聴き方のものさし』を掲示し，子供たちに意識させるようにした。



授業での振り返りシート
（前期課程１年生）

(3)　子供たちを取り巻く環境面の充実

ア　校内の掲示物を『ＵＤデジタル教科書体』のフォントに統一し，漢字にもルビをつけるなどして，掲示物のユニバーサルデザイン化に取り組んだ。

イ　中庭や花壇，遊具などを整備することで，子供たちの情操を育み，安心して過ごすことのできる環境づくりに努めた。

子供たちの憩いの場となるように
整備した中庭

(4)　より良い人間関係を築くための社会性の充実

ア　他学年と一緒に給食を食べる交流給食を実施したり，誕生日には全員で“お誕生日カード”を準備したりするなどして所属感を高め，学校に来ることが楽しいと思える場面を増やした。また，児童生徒集会の中で『特技発表』の時間をつくり，挑戦することを推奨し，子供同士で認め合うようにして自己肯定感を高められるようにした。

イ　全学年で定期的なＳＳＴを実施することによって，他者との関わり方について学べるようにした。

ウ　「大里郷中教育」として，前期課程と後期課程の子供たちが一緒に学び合う場を設定した。

大里郷中教育で１年生が８年生から
英語を教えてもらっている様子

5　研究のまとめ

(1)　成果

・　子供たちのウェルビーイングを高めるための様々な取組の結果，子供たちの自己肯定感や自己有用感などが高まってきた。

・　個別最適化された学びや対話的な学び合いを充実させることによって，子供たちの学習意欲を高めるとともに，思考力・判断力・表現力を向上させることができた。また，職員全体で授業改善をしていこうという雰囲気が高まった。

(2)　課題

振り返りの内容が授業の感想に終始している子供が見られるので，「何が分かったのか」や「学んだことをどう生かすか」などを意識させながら取り組ませる。

6　今後の取組

今年度の取組を継続し，学習意欲やメタ認知する力を高め，子供たちが自己調整学習を進めていくことのできるよう研修の充実を図っていきたい。